

## とくべつしせき 11. 特別史跡

### いちじょうだにあさくらしいせき 一乗谷朝倉氏遺跡

所在地：福井市安波賀中島町字赤旗二

調査原因：調査整備事業（第132次調査）

調査期間：平成22年5月25日

～平成23年3月23日

調査主体：福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

調査面積：約1,500㎡

時代：室町時代



位置図 (S = 1 / 10,000)

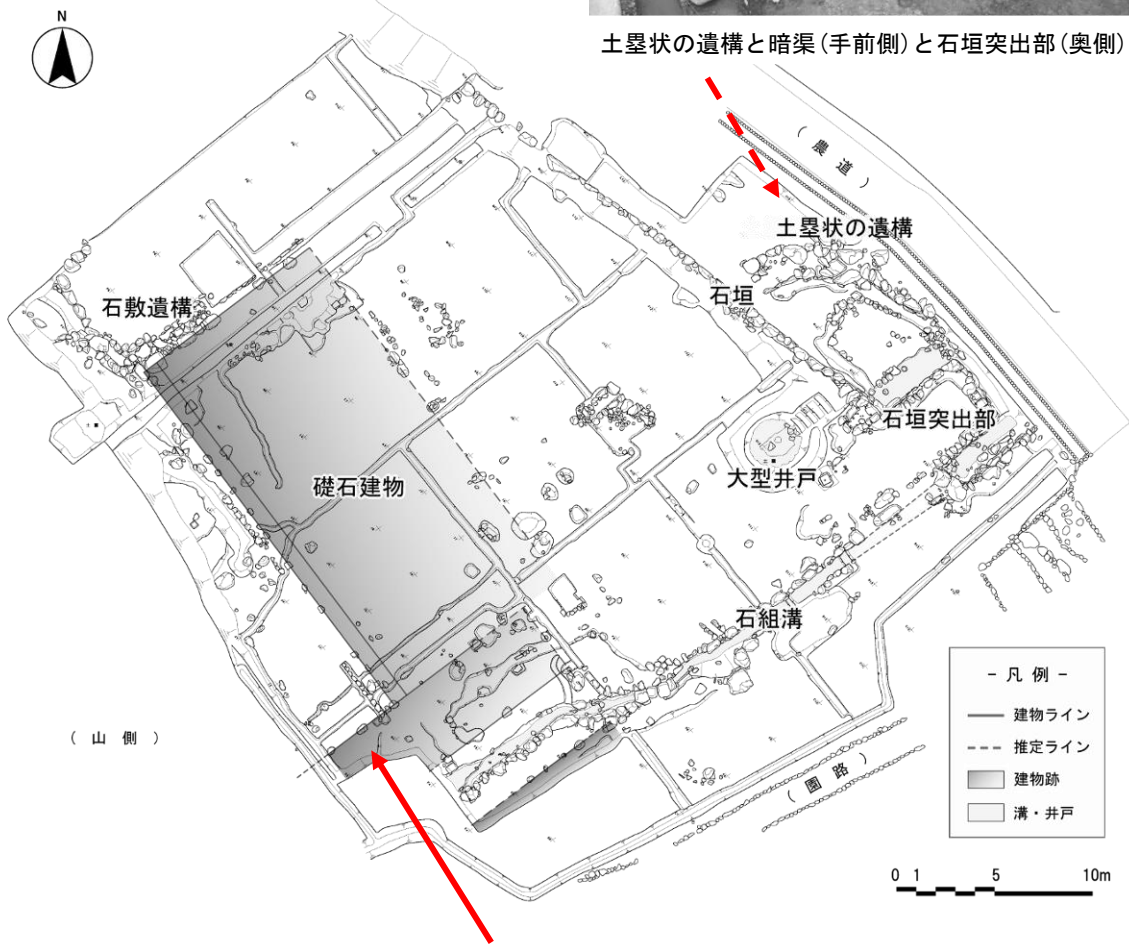
**調査の概要** 下城戸の北西約500mに位置する西山光照寺跡の調査です。西山光照寺はもと天台真盛宗の寺院で、朝倉(初代)孝景の叔父、鳥羽豊後守将景を弔うため建立され、天皇の勅願寺となるなど、かなり格式の高い寺院でしたが、文献資料が乏しく創建時期など詳しいことは不明です。江戸時代の初めに結城秀康より寺領を賜り、現在の福井市中心部で再興されています。過去の発掘調査は、平成6～7年度に寺城南側で行なわれ、大型地下式倉庫や巨石積みの石垣などの遺構が検出され、地下式倉庫内からは火事場整理で捨てられた陶磁器の優品が数多く出土していることが成果としてあげられます。今回は寺域の北側での調査で、平成22～23年度にかけて行います。平成22年度は、調査区の南側の約3分の2の面積を調査しました。

**遺構** 上段と下段の境の斜面で巨石積みの石垣を検出しました。石垣は調査区の南側付近では鍵折れになり、上段の平坦面が幅3.5mで、東に約4.5m突出していました。突出部の北側では、石垣をもつ土塁状の遺構によって囲まれた敷地があり、土塁状遺構には排水のための暗渠も造られていました。上段の平坦面では、山際近くで火災跡とみられる焼土面が広がり、長さ約20.5mにわたって直線状に並ぶ礎石列を検出しました。全体の正確な規模は不明ですが、南北約20m以上の大型の礎石建物(SB1)になる可能性が高いとみられます。この他、主な遺構として、石組溝(SD1)や、側石が崩れた大型の井戸(SX3)や、石敷遺構(SX12)などがあげられます。

**遺物** 主な遺物は、土師質皿、越前焼、瀬戸美濃焼、信楽焼など国産の陶器と、中国製の青磁・白磁・染付・華南彩釉陶器、朝鮮製のソバ茶碗などの輸入陶磁器。釘、銅銭、厚手の銅製品片などの金属製品。バンドコ、鉢、盤、硯、臼など石製品や、笏谷石製の石造物として一石五輪塔、板碑、石仏、台座、石龕の屋根、板状片、導水施設になる楕円形の盤。その他、ガラス製品片1点が出土しました。  
(櫛部正典)



土塁状の遺構と暗渠(手前側)と石垣突出部(奥側)



山際の礎石建物